

第1回あま市本庁舎基本設計委員会会議録要旨

■日 時 平成28年12月28日(水) 午前10時から午前11時50分まで

■場 所 あま市役所本庁舎2階 第3・4会議室

■出席者等

(委員) 15名

(事務局) 8名

(傍聴者) 12名

(その他) 4名

議 事

■議題

- (1) あま市の庁舎整備に関する検討経過
- (2) 基本設計委員会と市民ミーティングの役割
- (3) 全体スケジュール

【説明内容】

事務局より資料1の内容について説明

【主な意見等】

意見・質問なし

- (4) 関連計画における庁舎の位置付け

【説明内容】

事務局より資料1の内容について説明

【主な意見等】

委 員： 庁舎整備の4つの基本方針の「①市民のふれあいの場としての庁舎」において、公民館などの機能的な兼ね合いはどのように考えているか。

また、公共施設の縮減も視野に入れているか。

事務局： 実際に公民館機能の貸館、貸部屋の機能等も十分に踏まえることで「市民のふれあいの場としての庁舎」として市民利用できるようにすることを検討している。

また、公共施設等総合管理計画の中で機能集約ということも検討を進めている。

委 員： 庁舎整備の3つのコンセプトの中に「ワンストップサービスの実現」とあるが、具体的にどのようなことか。

事務局： 課をまたぐような手続を、一つの窓口や一回の手続で処理し、より利便性の高いサービスを効果的、効率的に提供していきたいと考えて

いる。

委員： 庁舎の防災機能、災害時の避難場所としての機能をどのように考えているのか。

事務局： 新庁舎は避難所ではなく災害対策本部としての機能を備える方向で検討している。水害想定として敷地全体を盛土することも検討している。しかし、避難タワー等を設けることは考えていない。

委員： 沖之島地区は、コミュニティ機能もしっかり組織化され、まちづくりが盛んな場所である。当該地域をどのように整備していくのか。

事務局： 都市計画マスタープランの中で、名鉄津島線の七宝駅を中心とした北側（富塚地区）と南側（沖之島地区）の一带については、既存ストックを活用した基盤整備の推進、開発の適正な規制・誘導などゆとりある良好な居住環境維持向上地と位置付けをしている。

委員： 「②市民を守る防災拠点の整備」と「④簡素で効率的・経済的な庁舎」について、両立が課題である。

市民活動スペースで市民への平時の防災啓発が重要と考える。

総合計画後期基本計画（素案）の「防災拠点と地域間の連携を強化」や、都市計画マスタープラン改訂（素案）の「防災活力連携拠点から、この効果を市全体に波及させていく」とはどういうことか。

事務局： 市内の避難所との連携の強化を目的とし、市全体の防災力の向上を図りたいと考えている。今後、地域全体との連携も視野に入れた道路網の整備を検討していく。また、中越地震の事例より、立体駐車場について、災害時の支援物資集配拠点（救援物資の中継・分配機能）として利用することを検討している。

委員： 新庁舎の休日等の市民開放について、どのように検討されているか。

事務局： 利用しやすい市民開放スペースの提供について、庁舎のセキュリティ面を考慮しながら検討していく。

委員： 3つのコンセプトと4つの基本方針について、相容れない項目もあるので、優先順位付けを行っているか。

事務局： 現時点では優先順位はなく、全て並列で庁舎整備を検討しているが、災害時に機能しない庁舎では意味が無いため、今後、委員会の皆様にご助言、ご意見を頂きながら進めたいと考えている。

委員： 新庁舎建設時期は、東京オリンピックの建設時期と重なることもあり、建築費の高騰も懸念されるが、そのための対策として考えていることはあるのか。

事務局： 例えば、新しい発注方式であるECI方式（設計段階から施工者が関与し連携することで建設コストを抑えていく方式）など、今後、様々な事例を研究していきたいと考えている。

委員： 新庁舎建設地周辺は他の施設がないため、完成後の利用価値や地域

の活性化を期待することは難しいと思うが、将来的に新庁舎周辺に他の複合施設を設ける予定はないか。

事務局： 具体的に新庁舎周辺に新たな施設を設けることは考えていない。現在策定中の公共施設等総合管理計画では、既存施設の更新のタイミングに併せて学校施設の一部を有効活用する方向で計画策定を進めていく。

委員： 県道を含めた新庁舎周辺道路整備が急務の課題であると思うがどのように考えているのか

事務局： 大規模な道路整備となることから、しっかりと取り組んでいく。また、県に対しても整備推進を求めていく。

(5) あま市本庁舎設計主旨・コンセプト（素案）

(6) 基本設計における設計条件の検討・整理すべき事項

(7) 建物耐震性計画、敷地造成の考え方（素案）及び検討ポイント

【説明内容】

事務局より資料1の内容について説明

【主な意見等】

委員： 2、3メートルの盛土（嵩上げ）が行われると、障がい者、高齢者などは、玄関までのアクセスが大変だと思うが、その辺はどうか。

事務局： スロープの勾配を極力ゆるやかにするなど検討していく。

委員： 庁舎敷地の東側上空に高压送電線があるがどのように整理しているか。

事務局： 高压送電線に十分注意しながら配置計画等を検討していく。

委員： 139号線の道路面の海拔はどのくらいか。

事務局： 海拔ゼロメートルである。

委員： 3つのコンセプト、4つの基本方針、5つの設計主旨コンセプト、6つの設計条件の検討整備すべき事項がどのような関係になっているのか分からないので、整理願いたい。

事務局： 3つのコンセプトと4つの基本方針は、基本構想・基本計画で掲げ、その後の設計条件等で新たに整理検討していかなければならない項目を列挙した。今後の方針として5つの設計コンセプト（素案）を元に基本設計業務を進めていく。

委員： 基本構想・基本計画に元来あった部課間の連携のしやすさのための事務機能の集約、行政の効率化、市民サービスの提供体制をどう構築するかといった視点が抜け落ちている。検討事項の項目として盛り込むべきである。

事務局： 基本設計における検討事項に追加した上で今後検討していく。

- 委員： 災害対策本部の規模と役割について整理する必要がある。
構造的なこととして地盤条件が悪い場所での盛土に対して、地盤沈下（圧密沈下）が生じることを想定した設計検討を行ってほしい。
自家発電設備の設置場所や容量、上下水（給水、排水）の設備、容量等について、十分検討する必要がある。
- 事務局： 今後の検討課題として整理していく。
- 委員： 市民活動スペースについて、市民にどう利用してもらおうかということと、どう関わってもらおうかということが必要だと思う。
市の将来ビジョンとして、何を売りにこの地域を発展させるのか、市としてアピールをどうするか、是非検討してほしい。
- 事務局： 今後の検討課題として整理していく。